

# 未来を拓く再エネ戦略：実践者と専門家が語る課題と突破口

## パネルディスカッションでの主な議論 (1/2)

### 再エネ導入拡大の現状と課題

- 導入量の低迷：FIT/FIP導入量が低下、風力も増えていない。
- 現場の課題と審議会議論の乖離：系統への接続、逆潮流等の長年の課題が未解決だが審議会で十分に議論されていない。**事業者の声を丁寧に聞いて政策議論に反映**する必要。
- 具体的な現場の障壁：系統接続の困難さ・遅延、逆潮流への規制の厳しさ、営農型太陽光での農業委員会での承認にかかる時間、農地転用許可が最大10年、系統制約、コストアップ分の価値を認めるオフティカーの必要性など。

### 必要な政策や制度の変化

- 目標への合意形成：再エネ導入目標の社会的な合意を形成し、**強い目標を設定することはシステム転換の明確な意思表示**に。その元で省庁一貫した政策議論が進めば、具体的な政策もより柔軟に取ることが可能に。
- 脱炭素化インセンティブ：石炭火力よりガス火力が減っている状況。**カーボンプライシングの導入により炭素排出のコスト明確化**を。
- 需給調整・出力制御の抑制：ネガティブプライス、デマンドレスポンス推進の強化、余剰再エネの水素製造への利用など。
- FIP転換によるコーポレートPPA：どこに電力を売っているのかが明確に。**事業規律向上、地域への経済的貢献を明らかに**できる。
- 再エネを活用する需給運用：**再エネ自身を調整力として活用**し、需給調整市場に入れることを提案。再エネを抑制し火力を待機させる運用から脱却することが可能。

# 未来を拓く再エネ戦略：実践者と専門家が語る課題と突破口

## パネルディスカッションでの主な議論 (2/2)

### 社会的受容性・ナラティブの構築

- **再エネに否定的な言説の拡大**: 選挙で反対勢力が伸長、影響力ある人物による否定的言及。比較的ライトに再エネ賛成だった層がマイナスに転じる可能性。
- **世論のベースと便益の強調**: 目標強化には世論が重要、**再エネの多面的な便益を強調**する必要。営農型による農家の収入の多様化、地域への経済的メリット、火力発電削減による便益。**「再エネは国益」というナラティブ**の拡大。
- **合理的な指摘への対応**：特定国依存・サプライチェーンリスク（国産推進、調達の多様化）、廃棄物の問題（規律あるリサイクル実施を示す、リユース拡大による海外依存低下）
- **発電所の顔の見える化**: **誰がやっていて誰が買うのかを明確に**し、地域との連携や合意形成につなげる。

